

夢は実現してこそ夢



ふるや よしゆき
はだの 秦野市長(神奈川県) 古谷義幸
Yoshiyuki Furuya



秦野の全景と富士山

自然豊かなわがまち秦野

秦野市は、人口約17万人、新宿、横浜から約1時間、北方に丹沢山塊が連なり、南方には渋沢丘陵が東西に走る、県内唯一の典型的な盆地を形成しています。地下は天然の水がめとなって山々からの水を蓄えており、「秦野盆地湧水群」として環境省の全国名水百選に選ばれています。また、近代秦野の発展へとつながった「たばこ耕作」や、明治、大正、昭和の時代に、全国に先駆けて取り組んだ陶管水道事業（日本で最初）、町営電気事業、軽便鉄道事業などは、先人たちが成し遂げた偉業であり、市民の誇りでもあります。特に、日本三大銘葉として名をさせた「たばこ耕作」は、本市発展の礎を築きました。毎年

秋には、その歴史と情熱を伝える「秦野たばこ祭」を開催し、本市最大の祭りとして毎年多くの人出でにぎわいます。

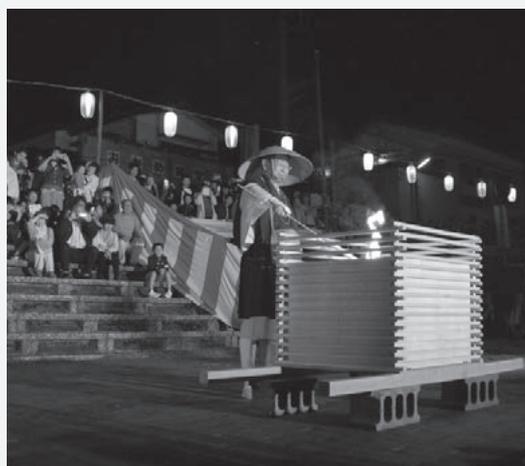
秦野市は、二宮尊徳ゆかりの地でもあります。尊徳の教えに基づき、「報徳思想」を広めた安居院庄七と草山貞胤が本市の出身です。昨年10月には、尊徳ゆかりの「全国報徳研究市町村協議会」に加盟している18市町村が集まり「全国報徳サミット」が本市で初めて開催され、市内外から、約1200人の方に参加いただきました。

来年1月には、市制施行60年の節目を迎えます。本市が誇る豊かな自然と、先人から受け継いだ文化伝統を広く発信するとともに、市民が「ふるさと秦野」への愛着を深め、本市の魅力を再発見できるような記念事業を検討しているところです。

昨年、世界文化遺産に登録された富士山も、市内各所からその美しい姿を見ることが出来ます。鶴巻温泉もありますので、ぜひわがまち秦野へお越しください。お待ちしております。

今はもっぱら「環境ウォーキング」

この何年かの趣味は、ゴミを拾いながらの散歩です。自分では、「環境ウォーキング」と呼んでいます。右手に「長めのトング」、左手に「ビニール袋」を持って、登庁前や休日に散歩をします。健康のためはもちろんですが、ただ歩くだけでは



「秦野たばこ祭」の際に、弘法大師に扮する筆者

長続きしないのではと思いき、ゴミを拾うことにしました。今では、1日に1万歩を目標に歩いています（1万歩へのこだわりは少々度が過ぎていたかもしれません）。歩くことで、今まで気が付かなかった新たな発見があったり、何よりもまちがきれいになることがうれしいのです。今では市民の方が自発的にゴミ拾いをしてくれます。お祭りや事業のあとはもちろん、それが終わった後は、夜遅くになってもその日のうちにゴミを片付けてくださる方々があります。こうした方々のおかげもあって、市内はいつもきれいです。本市を訪れる方から、「ゴミのないきれいなまちですね」とよく声を掛けられます。私は、「美しいまちですね」と褒めていただくことはもちろんですが、「きれいなまちですね」と言われることもそれ以上

にうれしく感じます。

散歩できない日もありますが、これからも、時間をみつけては、歩くようにしたいと思っています。

そのほかの趣味としては、読書や離島の旅でしょうか。読書は時代小説ものを好んで読んでいます。離島の旅の方は最近ではなかなか実現できていませんが、かつては、五島列島などよく日本各地に出掛けていました。これからは、妻と一緒にのんびりとローカル線の旅を楽しみたいと思っています。

「住みやすいまち、住んでよかったまち、住み続けたいまち」の実現に向けて

この度の市長選挙を経て、三たび、



”環境ウォーキング”に勤む筆者

17万都市の市政のかじ取りをお任せいただくことになりました。その責任の重さに、改めて身の引き締まる思いです。

これまで、市民の皆さまをはじめ、多くの皆さまのご理解とご協力のもと「市民の幸せ、喜びの実現」に向けて、市民力、地域力、職員力をしっかりとたすき掛けしてまちづくりをさせていただきました。3期目につきましても、全身全霊を傾けて市政運営に取り組む所存です。

昭和50年市議会議員に初当選以来、県議会議員を経て、この間2度の落選も経験しましたが、今年で39年がたちます。思えば永い時を政治の世界で過ごしているものです。原点は、若い日の外国訪問（インド・ネパール）で、政治の貧しさが市民の貧しさに直結しているさまを目の当たりにしたからです。その日から今日まで「市民の幸せ」のためには何ができるか「市民の幸せ」のためには、率先して行動を起こすことを人生の目標として、夢を持ち、努力を続けてきたと自負しています。市にできることには限界がありますが、「市民のためになることであれば、それが国の仕事であろうと、県の仕事であろうと、秦野市ができることは何でもやってやるんだ！」と思い、これまでやってきました。そして、このことは、これからも決して変わることはありません。今、本市は、「公共施設の再配置」の取



3期目の初登庁

り組みで全国から注目を集め、毎日のように視察の方々が訪れています。人口減少や少子高齢化が進む中、公共施設の更新問題について、今までよりも税の負担を少なくしながら、本場に大事な公共施設のサービスを、将来にわたり続けていくことができるようにするというものです。厳しい財政状況は、どこも一緒です。健全財政を維持しつつ、持続可能な公共サービスの提供をすること、何よりも次世代に多くのつけを回さないことが大事だと思っています。今後も、市民一人一人が夢と希望を持ち、秦野市をもっと元気に、「住みやすいまち、住んでよかったまち、住み続けたいまち」にするために、さらに、全力を尽くして取り組んでまいります。